

# 平成 29 年度第 2 回 地域活動実践講座 レポート集

道民力レッジ主催事業

開催日：平成 30 年 2 月 21 日（水）

場 所：かでる 2・7 1030 研修室



# 目次

1. 平川 省三 私の地域活動	1
2. 山内 ヒメ子 台風・大雨・土砂崩れ	2
3. 丸尾 清一 自主学習グループ「めだかの学校」での学び	4
4. 落合 俊忠 川柳句会に参加して	5
5. 熊谷 ゆき 百合が原公園 スノーキャンドルに参加して	8
6. 白山 正 幅広いボランティア活動をめざして	10
7. 榎本 聰子 地域活動実践講座レポート	12
8. 佐藤 一雄 自治会役員としての活動	13
9. 伊東 恒子 私の地域活動	15

## 私の地域活動

平川 省三

現在私は、①民生委員児童委員②町内会副会長③老人クラブ副会長という3つの立場で地域活動に関わっております。

民生委員活動では、生活困窮世帯・要介護世帯等からの相談を受けて、その要望を行政の支援につなげていくのが主な仕事です。特に、声を出せないでひとりで困難に直面している人・世帯がないか、担当地域内の状況把握がとても重要になります。冬期間は除雪の状況なども見回っております。

町内会活動では、平成23年から副会長を務めております。町内会は約280世帯で、マンションはあまりなく、ほとんど戸建て住宅です。幸いにして未加入世帯は数世帯にとどまっております。

主な年間行事は、①定期総会(4月)②新年会・町内会夏祭り・敬老会③婦人部の諸活動④春と秋の町内清掃活動等です。

27年6月、町内会に「ふれあいサロン」が発足しました。これは「月に一度くらい、会館にみんなお弁当を持ち寄って、楽しい語らいのひと時を過ごしましょう」というものです。その際は、市の各担当課や、他の官公署からも「出前講座」をしていただきました。月一度毎回30人前後が集まって約2年間順調に継続しました。

老人クラブ活動は昨年(29年)からです。私の居住している「扇町」には4つの単位町内会があります。この地域を主な基盤とした「扇町老人クラブ」があったのですが、29年3月末をもって解散してしまいました。会員減少によるものです。

老人クラブは、会館内外の清掃・地域内児童公園の草刈り等を、受託事業として担っていました。後継組織を少し必要とする地域コミュニティーの実状もあり、結果として前述した「ふれあいサロン」が後を継ぐ事となりました。現在名称も老人クラブ「扇和会」となり、サロン活動の趣旨を踏まえつつ倶楽部活動に取り組んでおります。

いま、民生委員もなり手が居なく、欠員が目立ってきております。町内会役員などはもっとひどい状況です。かくいう私も来年(31年)には80歳です。

# 台風・大雨・土砂崩れ

山内 ヒメ子

災害と隣り合わせの生活をしている私たち、目から飛び込んでくるこれらの言葉に恐れを感じ「災害は生き延びるため戦わなければならない相手」と認識し対策を練るのは当然のことと思うようになってきた。

「どうしよう?」「困った~」と右往左往している場合ではない。「お隣同士手をつなぎあって災難から逃れる事」それがまず第一歩!

「避難支援協力者」という担い手になった。65歳以上は「高齢者」。本来私も「要支援者」に分類されるらしい。でも!「自分で歩ける。避難場所もわかる。」ゆえに「される側」ではなく「する側」に回った。

わが町内は

- ・高台に位置し眺望は最高! (山を崩して造成した傾斜地)
- ・さらさらと川が流れ自然豊かな環境! (土砂災害要注意区域)

避難のための手順

避難手順1

避難所開設・高齢者避難準備開始

- ・西区地域安全担当と連絡
- ・避難準備範囲の確認
- ・避難行動開始決定



避難手順2

①大雨警報発令・・・対策本部の役員集合

(会長・副会長・総務経理地域安全など各課長・4区長)

②避難準備情報発令・・・全役員に緊急集合連絡 第1~第5グループリーダーに連絡

③緊急役員会・・・役割分担と指示

避難手順3

グループリーダーの避難誘導手順 あらかじめ配布した一覧表名簿によ依い

①副リーダーと支援協力者に連絡 (電話・個別訪問)

②自力歩行できる支援協力者は指定の集合場所 (車庫) に集合

③各グループには、町内会役員を配置しているので対策本部と連絡を取り合う  
(避難誘導の車両を確保)

④「要支援者」宅を訪問し、避難準備 (非常持ち出し品) を用意し、歩ける方は、  
自力で集合場所に徒步で、歩行困難者は、車両で迎えに行く

#### 避難手順4

集合場所で要支援者を車両に乗せて避難所まで誘導します

各グループのやるべき仕事

1. 避難誘導車両の確保
2. 非常持出品の準備を伝言
3. 自力歩行可能な方は集合場所までくるように伝言、自力歩行困難者は車両で迎えにいきます

「要支援者」宅を訪問し、避難準備（非常持出品）を用意し・・・

これは拙い！

- ・非常持ち出し品は常に用意しておくべきだ。変更してもらわなければ
- ・要支援者は何処のどなただろうか？名前も、住まいもわからず  
(支援協力者に要支援者の情報は知らされていない)・・
- ・スタートしたばかり、そのうち会合が開かれ話し合いの中で形が出来上がってくる  
だろう

形が出来上がる前に、災害の起きないことを祈りながら、いざ！という時役に立てる  
支援協力者になれるように日々努力あるのみだ。

## 自主学習グループ「めだかの学校」での学び

丸尾 清一

「めだかの学校」の講座に参加させていただいてから4年が経過した。

講座に参加させていただき、その学習スタイルに私は魅了された。

最初の一年こそ、一参加者でしかなかったのだが、一年ほど通ううちに「めだかの学校」の会員のお一人から、「会に入会しませんか?」とお誘いを受けた。紹介していただいた方がお世話になった知人だったということもあり、喜んで入会させていただいた。

会員の一員となると、参加者の受付を担当したり、視聴覚教材を放映する際のナビゲーターを担当させられたりと、単なる参加者ではない喜びを味わうことができた。

そして私を引き付けたもう一つの要因が「給食会」と称する、月に一度の会員同士の飲み会である。先輩後輩分け隔てなく、気軽に談笑できる雰囲気が私を魅了した。また、その席で「めだかの学校」の在り方などについてお話をさせていただく機会も得た。

さらに、昨年の総会時には会の「運営委員会」の一員に推された。「運営委員会」は「めだかの学校」のすべての運営にかかわることについて協議する場である。この委員会に所属させていただいたことで、さらにやりがいが増したように思う。

このように「めだかの学校」は、自らが学習計画を立てて、互いに学び合うというグループである。学習は時として、自分たちだけではなく、広く外部に開放し、共に学び合う場もある。

私たちのこのような活動は、単に自分たちだけのものではなく、学びたいと思っている方々に門戸を広げ、生涯学習の輪を広げようとする実践の一つかなあ…、と考えている。

生涯学習とは、単に学ぶだけではなく、自ら企画し学ぶ場を提供することで、学ぶ喜びも倍増する思いである。

私たちの現在の課題は、こうした仲間をもっともっと広げて大きな輪に広げていきた  
いというのが喫緊の課題である

私たちとともに生涯学習の本当の喜びを知るために「めだかの学校」に集いませんか?

## 川柳句会に参加して

落合 俊忠

生涯学習ならびに地域活動の機会として川柳句会に参加している。昨年、第41回全日本川柳2017年札幌大会が10年ぶりに6月18日（日）京王プラザホテルで開催された。全国からの当日出席者は552名、事前投句者1,825名、ジュニア4,761名で盛大におこなわれた。私も10年前の大会参加後、2回目として参加した。とにかく規模と内容が充実して大変満足を得ることが出来た。

次に、まず通常毎月開催している句会について説明する。句会は、グループ毎に毎月1回を目安に実施している。私は、中央・とよひら川柳会に所属している。この会は、会員20名位であり毎月・月末月曜日13時30分から札幌エルプラザ研修室で実施している。この句会の中で各自が自分の作品を持ち寄り相互研磨の場として参加している。即「我以外、皆我師也」の実践道場である。その中から相互学習が生まれ、今後の楽しみが出てくる。

具体的には、事前課題2つを提示し、夫々2句ずつ計4句を準備する。その他に他の句会からも投句として参加することができる。これらを選者（事前指定者）が選び発表する。

次に、当日課題を発表し、その場で各自が句を作り、1句を提出し、参加者による相互選択し、相互学習をする。

更に、その他に、自分の所属する句会以外のグループにも事前の申込によって参加することも可能であり、これらを通して他句会との交流、相互研磨が可能である。

次に、札幌川柳者は、登録会員制を選択している。まず、登録者は会員、準同人、同人の登録を全員がする。会員は、入会者全員が最初の登録であり、準同人、同人は、札幌川柳社からの指定登録により決定する。

現在、登録者400名近い人が登録会員になっている。

まず、会員は、自由句を毎月「幌都集」に5句投句する。その中から選者（事前指定者）が4句を選択して「川柳さっぽろ」に掲載する。（私が会員の時は10句提出し4句選択されていた）

次に、準同人は、自由句を毎月7句投句し、その中から選者（事前指定者）が4句を選択して、「川柳さっぽろ」ぽぶら集に掲載する。

同人は自由句を毎月4句投稿し、その中から選者が選んだ句を表示して、「川柳さっぽろ」あかしや集に全提出句がそのまま掲載される。

この他に、「川柳さっぽろ」には「添削教室」「時事川柳」「課題投句」等があり、選者または指導者により選択掲載する。

さらに、さまざまな特集記事が掲載されているので興味と関心を持っている方は是非ご覧ください。

最後に私が川柳会に参加した動機は、

①今から 10 年前の全国川柳大会に参加した時、得たのが、これは面白い、自分の感受性を高めることができると確信を得た。

②句会等で、会員相互の学習を得る中で地域活動ができる。

③句づくりを通して、自分の見方考え方、表現等に幅広く奥深い感受性を涵養する。などを持つことができた。

参考までに、資料として「各川柳会のご案内」「投句の案内」「投句先」等を添付する。

☆2月各地句会のご案内(予告)☆

八百四十一

日(曜日) 時	会員名	会 場	会費	費科目	宿題
1日(木)13時半	川柳 あすなろ	厚別区民センター	500	124	見る
2日(金)13時半	川柳 「時の風」	札幌エルフラザ	500	124	息づかいい・意外 (各2)
2日(金)13時半	あつべつ川柳会	厚別区民センター	500	124	半分・かつかつ (各3)
10日(土)13時	清田 川 柳 会	清田区民センター	500	124	手帳・踊る (各3)
11日(日)13時	岩見沢の芽川柳会	文化センター	300	124	補う・好調 (各3)
13日(月)13時半	北川 柳 会	北区民センター	500	—	つながる (2句)・輪合 (1句)
16日(金)14時	手稲・西川柳会	手稲区民センター	500	124	新しい・大きさ (各2)
17日(土)13時	りんごの詠川柳会	豊平老人福祉センター	300	124	希望・時事吟 (各2)
17日(土)13時半	北広島川柳会	北広島福祉センター	300	124	ふたり・やわらかい (各3)
18日(日)13時	本社 句 会	かでる 2・7	500	—	(宿題) 猫・寒い (各2)
20日(火)13時	東川 柳 会	東区民センター	500	124	元気・豊か (各3)
24日(土)13時	江別川柳会	野幌公民館	300	200	走る・トンネル (各3)
25日(日)13時半	みんな川柳会	南区民センター	500	124	消す・待つ (各3)
26日(月)13時半	中央・よしから川柳会	札幌エル・プラザ	500	124	希望・鍵 (各3)

☆平成30年1月以降の授句のご案内☆

題		題	選	著	句數	締切日	発表
あかし人吟	(同人吟)	自由吟	岡崎 浪	守 越	4句	1月10日	3月号
はるら集	(津同人吟)	自由吟	鈴木 厚	政子	4句	2月10日	4月号
観	(会員吟)	自由吟	山下 梅	庵	7句	1月10日	3月号
観	(会員吟)	自由吟	川口 まどか	雄	7句	2月10日	4月号
重い	題	自由吟	鈴木 美	雄	5句	1月10日	3月号
重い	題	自由吟	鈴木 英	雄	5句	2月10日	4月号
重い	題	自由吟	平井 詔	子	3句	1月10日	4月号
添削	教官	裏く	山口 昭	悦	3句	2月10日	5月号
添削	教官	自由吟	遠藤 泰	江	1句	1月10日	3月号
添削	教官	自由吟	四分一 周	平	5句	1月10日	3月号
時事	川柳	自由吟	太秦 三猿				

〈草集提要〉

- | 各地授句先 |                               | ※授句料は62円の郵便切手で、授句料相当の枚数を同封してください。 |                               |
|-------|-------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|
| 川柳会   | 〒065-0020 札幌市中央区北20条東8丁目13-16 | 高橋 卓子                             | 〒065-0020 札幌市中央区北20条東8丁目13-16 |
| 西川柳会  | 〒006-0831 札幌市手稲区福岡1条1丁目11-5   | 沼澤 閑                              | 〒065-0021 札幌市手稲区福岡1条1丁目11-5   |
| 西川柳会  | 〒061-2282 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   | 岩崎 脇                              | 〒065-0022 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒064-0927 札幌市中央区北27条西12丁目11-1 | 小林 有子                             | 〒065-0023 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒068-0828 芦見沢山鹿が丘3丁目11-12     | 藤原 嘉彦                             | 〒065-0024 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒069-0813 江別市新富町4-1           | 丸山 進                              | 〒065-0025 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒004-0001 江別市新富町4-1           | 別所 利助                             | 〒065-0026 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒061-1127 北広島市新富町西4丁目12-3     | 野寺 陽                              | 〒065-0027 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒004-0841 札幌市手稲区沾田4条2丁目12-2   | 鶴見 万                              | 〒065-0028 札幌市手稲区藤野2条6丁目11-3   |
| 西川柳会  | 〒062-0934 札幌市手稲区藤野4条18丁目11-50 | 柳雀 仁                              | 〒065-0029 札幌市手稲区藤野4条18丁目11-50 |
| 西川柳会  | 〒002-8009 札幌市手稲区藤野4条18丁目11-50 | 柳雀 仁                              | 〒065-0030 札幌市手稲区藤野4条18丁目11-50 |
| 西川柳会  | 〒062-0921 札幌市手稲区藤野4条18丁目11-50 | 柳雀 仁                              | 〒065-0031 札幌市手稲区藤野4条18丁目11-50 |

## 百合が原公園 スノーキャンドルに参加して

熊谷 ゆき

### はじめに

阪神淡路大震災があった1月は、道内各地でスノーキャンドルトが行われている。百合が原公園では平成23年から始まった。阪神淡路大震災を思い、冬の災害時に公園の役割を考え、冬の健康維持に役立てる、共同作業を通じて地域の繋がりをもつなどの目的で開催されている。百合が原公園では廃油回収運動に参加しているので、キャンドルの原料は廃油である。公園のボランティア約40数名が何らかの形でこのイベントに毎年協力している。厳寒の中で灯される柔らかな温もりのある灯は心和み、幻想的な景色となり訪れる市民に親しまれていると思っている。

### 活動の実際

スノーキャンドルのイベントは①廃食油のエコキャンドル②キャンドル講習会③ドリンクサービスの3部門に分かれて活動する。12月に数回の打ち合わせと作業を開始し、1月中旬のイベントに向けて仕上げを行う。市民やボランティアから回収した廃食油は廃棄口ウソクと混合して型に入れて固める。容器や芯、廃棄口ウソクとの配合率など試行錯誤を繰り返し、現在は紙コップ式で約300個となった。キャンドル講習会は市民参加の講習会で、クレヨンで色付けしたロウをキューブ型に裁断し、カラフルでオリジナルのキャンドルを作成する。ボランティアが講師や補助を受け持つ。ドリンクサービスは以前甘酒だったが、親子連れが多いのでホットココアに変更し、来園者100名に無料提供している。

百合が原公園には4グループ40数名のボランティアが活動している。活動日が異なるため、このような公園全体のイベントに参加すると、ボランティア間の交流が深まり親近感が増す。話し合いで役割分担と作業計画・手順などを確認し、公園職員と共にどのようなスノーキャンドルにするかを決めている。話し合いで反省をもとに毎年色々なアイデアが生まれてきた。氷板に公園の押し花を封入する、風船を使っての雪型アイスキャンドル、バケツ型のアイスキャンドルなどである。各ボランティアグループ、職員、地域住民との繋ぎ役としてのボランティアコーディネーターの存在が欠かせないが企画の段階から関わると、活動も活発になる。

スノーキャンドルは一般の参加者も募集している。毎年数人が参加しており、当日キャンドルを置く雪洞掘りを見て飛び入り参加した親子連れもいらした。直接来園者と触れあえる貴重な時間である。

スノーキャンドルは1年かけて準備される。講習会に使う空き瓶やキャンドル作りに使う牛乳パックを集め、廃棄ろうそくをもらい受ける。公園の花や葉を準備し、12月の降雪量と寒気の状況を気にしながら何日もかけて氷板作りをする。当日の天候に左右

され、様々なハプニングに対応しながらスノーキャンドルが楽しく開催されている。

### 終わりに

平成15年に東区で始まったこの取り組みは全道に広がった。阪神淡路大震災から23年目の今年は百合が原公園の緑のセンターが改修中のため、スノーキャンドルは行っていない。私は平成18年から百合が原公園でボランティア活動をしており、スノーキャンドルには毎年参加しているが、毎回反省点がある。冬場に災害が起きたらどう行動するかを考える契機にもなったスノーキャンドルに今後も参加していきたい。

# 幅広いボランティア活動をめざして

白山 正

## はじめに

公務員生活を定年退職してから 5 年間外郭団体で仕事をしていましたがその期間も終わり、さて明日から何をすればと考えたときに、40 年ほど前に主婦を対象にボランティア活動の意義やその育成に携わったことがあり当時はまだボランティア活動についてあまり市民に浸透されてない時代でした。お世話になった方々に自分として何ができるのか思慮を重ねた結果、そこで自らボランティア活動に参加することにしました。

## 様々ボランティア活動が

地域での活動としては、私の町内会は約 1,000 戸の大世帯を 5 分区分割し、会長、各区長は固定化、実部隊として 8 つの各専門部あり町内会を動かすのは約 40 名の専門部員が中心になり活動する仕組みになっており数年間隔で専門部役職が回ってくることになり会計、保健体育、防犯防災の各部を担当しそのまとめ役を経験させてもらいました。

また、老人クラブ等の活動組織もあり活動の場もありますが加入しておりません。

NPO 法人の活動で 3 年間籍を置いたことがあり、活動のひとつとして地域サロンの立ち上げ一応軌道に乗った後、法人の運営方法の考え方の違いから身を引くことにしました。

この時期に「北海道開拓の村」で村の解説ボランティアを募集していることを知り、自宅も近く活動しやすい環境と思い早速申し込みをしました。

これと並行して退職職員で組織する OB 会で行っていた観光ボランティア活動に参加し、観光で時計台を訪れる客に時計台をバックに記念写真を撮る活動に従事しています。ただ、新年度は時計台の修復工事のため夏期の間は休館になる予定なのでこの活動は別の場所になるか、休止するか未定です。

## 開拓の村活動

- 1 厚別区厚別町小野幌に位置し、道立自然公園野幌森林公园の一角 (54.2 ヘクタール) にあり、開道 100 年を記念し昭和 58 年に開村。村内は明治大正時代を情景展示し、道内から歴史的建造物を収集し再現・復元などで市街地・漁村・農村・山村群からなる 52 棟群を展示しています。
- 2 営業期間等は基本的に夏期は 4 月～10 月、9 時～17 時。(休業日は無。) 冬期は 11 月～3 月。9 時～16 時 30 分。(月曜日・祝祭日の翌日休業。)
- 3 ボランティアは約 200 名が登録 (北海道開拓の村ボランティアの会に入会必要) され基本的に各曜日班と外国語班からなり私は金曜班に所属。主に活動時間は夏期 9 時 30 分～16 時 30 分、冬期は 10 時～16 時。(班活動は概ね一日 18 名)

4 一般財団法人北海道歴史文化財団による「北海道開拓の村アカデミ」により2年間基礎研修と活動を併用しながら先輩ボランティアのアドバイスを頂き3年目から独立し次の活動をします。

総合案内、村内ガイドツアー、旧来正旅館⇒昔の駄菓子販売と建物解説、旧青山家漁家住宅⇒囲炉裏端解説とお茶の提供、旧小樽新聞社⇒手フート印刷の実演と建物解説、旧札幌警察署南一条巡回派出所⇒立哨と村内巡回、旧秋山家漁家住宅⇒網の縛い演示と建物解説。(当班以外は旧山田家養蚕板倉⇒わら細工実演の展示)などを行っています。また、旧田村家北誠館蚕種製造所では7月下旬から8月下旬にかけて養蚕作業を展示するとともに養蚕事業の歴史などを解説しています。

## 5 むらびと活動

ボランティアはすべて各建物に籍をおきその建物ごとに活動をしています。

私は旧ソーケシュオマベツ駅廻所に登録、6名が所属し、道内の現存する各駅廻所廻りを行い歴史などの自主学習のほか、『村』の行事に積極的に参加をしています。

6 その他の活動として、子供を含む家族対象の、昔のリンゴ、じゃが芋、大根の栽培などが行われ専門職から技術などを取得しながら参加者に補助的な助言や技術指導を行っています。

しかし、初めての来村は別として何度も来村してくれるリピーターには情報が足りません。そこでこれを補完するため多彩な科目を展開する「道民力レッジ」の様々な分野で学習させて頂き、この果実を活動の糧としています。

## おわりに

少子高齢社会にあって増えた高齢者が必要とされる時代となっていく中で今後、現状のボランティア活動で満足しているわけではなくできれば地域でどんな活動があるのか模索しながら積極的に道民力レッジに参加しながら自己研鑽を高めながら何らかの形で社会に還元していかなければよいと思っています。

# 地域活動実践講座レポート

榎本 聰子

このレポートは募集説明に「地域活動を行っている方、これから地域活動を始めたい」という方」と言う但し書きがあるので私は無資格かもしれない。

しかし、地域活動をやってきた、やりたいという気持ちは強いにもかかわらずそれが出来ない私も無関心ではない。

防災などの講習を受けると必ず「自助・共助・公助」という言葉が出てくる。

自助は自分の力で、誰しも大変な時は自分でできる限りの努力をすると思うが、それだけでは小さく力不足なので他の力を借りたいことが多く出てくる。

だからと言って公助である行政が手を下してくれるまで待てなくて、至急の力を必要とする場合が勃発することもある。

そのような時に一番身近で大きな力になってくれるのが共助である、地域の力である。

しかし、日ごろから近所の人を知らない、あいさつを交わしたこともない状態だとその重要な力を得ることも人の役に立てることもできない。

現在のところに住むようになって最初に試みたのは自分でできることで近所と知り合いになろうとパソコンを教えるためのチラシを作成して配布したことだ。

同じマンションの人は2名申込があり、他の知り合いも入れて5名ほどだが『習得したい内容』がそれぞれなのでマンツーマンで私自身の時間的拘束は大きかった。

でも教えることが好きなのでかなり頑張った。

同時に町内会の老人クラブ入会を申し出たら「お宅みたいに勉強したい人は老人クラブでは浮き上がる」と断りを受ける。

その後の町内会は世代交代と言えば良いのだが、以前小さな商店を営んでいたところはシャッターを閉じ、他の住宅も無人の空き家街になった。

住んでいる人がいても介護を受けながら一人暮らしをしているような状態が孤独死も出るようなありさまである。

こんな地域こそ共助が必要だがそれが出来ないところまで老化が進んでいる人が多い。

私自身も色々と試みることをしたのは何とか自分が動かれる状態の時であり、いまでは自身が要支援2の認定を受ける状態で、あきらめが先に来ている。

町内会の総会と言っても200戸もあるのに出席人数は一桁程度。

このような地域を改革するにはどうするべきかみなさんのお知恵を借りたい。

## 自治会役員としての活動

佐藤 一雄

私が住む見晴台地区は、江別市の北東部に位置する住宅街です。江別屯田兵村の一部として開拓され、戦時には木製飛行機の飛行場として使用されました。1980 年に土地区画整理事業がスタート、1986 年に宅地販売が始まりました。現在人口は約 4,600 人で北海道 189 市町村中、128 位の鹿部町に次ぐ人口規模です。

設立 30 年経過した自治会は会員数が 1,500 世帯と江別市 No. 2 のマンモス自治会であり、少子・高齢化 (26.6%) と言う問題の他に共助意識或いは防災意識の向上と言う課題を抱えています。一方、自治会という面でみると役員の固定化・高齢化、活動内容の慣例化や行事参加者の固定化等一般的に言われている課題を抱えています。

私が自治会と関りを持ったのは、2007 年 5 月自治会だよりに掲載された「自宅でパソコンなどを趣味で使っている方、文章を書くのが好きな方、あなたの技術をボランティアで『見晴台自治会だより』に生かしてみませんか?」という自治会だより編集スタッフ募集の記事でした。

道民カレッジ生として北海道情報大学や教育研究所で学んだ知識の活用ができるのではないかと考え早速担当者にメールを入れました。そのあとはトントン拍子で翌月からの自治会だより原稿入力に携わり、約 3 年間ボランティア活動を行いました。

2010 年 2 月自治会の役員改選に当たり、総務副部長への就任要請が受け、断る理由もなく気楽に受けてしまいました。それから 8 年が経とうとしていますが、この間総務副部長 1 年、総務部長 3 年、副会長 3 年経験、本年度役員改選では、役員選考委員長の立場上、なり手のいない健康福祉部長を引き受けざるを得ませんでした。

本年 4 月開催の自治会定期総会で、上記に挙げた自治会としての課題解決のため規約が改正され、組織は 10 部から 1 局 4 部に、役員は 41 名から 23 名に大幅に縮小減員されました。健康福祉部は、旧社会福祉部の担当事業の他に新たに会員の健康問題についても担当することとなりましたが、人員は旧社会福祉部定員 5 名から 4 名に減員となりました。

更に、個人情報の取り扱いが厳格になり、会員情報の入手が難しくなり、事業内容の大幅見直しが必須となりました。

旧社会福祉部時代の最大行事は「敬老会」でした。対象者を 75 歳以上と年齢制限しても 350 名を超える方が対象者で、このうち 120 名近くの方が「敬老会」に参加されていました。テーブルを使用した場合の自治会館の収容人員は 120 名であり、今後出

出席者増加が考えることから、新たな敬老行事の検討が議論されていました。又、出欠確認・招待状配布、おもてなし、更には欠席の200人以上の方には記念品配布と役員にとって重労働でした。

祝ってもらう会ではなく、健康・長寿であることお互いに喜び合う会へ趣旨を変えようと考え、招待制で酒肴を提供し、出席者からは大変喜ばれていた「敬老会」を自主的に参加してもらう「敬老の集い」に変えました。併せて喜寿・米寿・白寿の方に長寿祝金を贈ることとして、本年より新たな敬老行事がスタートしました。

本年度の「敬老の集い」の内容は漫談・歌声、お土産はクッキーでしたが、53名の方に参加いただきました。「酒」が出ないなら参加しないという声も多く聞こえた中の参加人数なので、結構多くの方に参加してもらったと思っています。来年度は会員のサークルに参加願い、出席者もともども参加できる内容を考えています。

いくつかの行事は廃止するか、高齢者限定ではなく、減少しているといわれる大人と子供の接点、そして自治会行事への参加者の固定化に対応すべく、高齢者に限定していた事業を会員すべてが対象となるように「三世代交流事業」とました。

また、老いも若きも共通理解が可能な「地域の歴史講座」を開設し、解説者は郷土史専門の役員にお願いしました。

さらに近隣関係の基本は“挨拶”からという考え方から、自治会館前駐車場での「ラジオ体操会」をはじめました。毎朝50名を超える人が参加されましたが、半数は今まで自治会行事に参加していない方で、朝の空気の中で挨拶を交わし、みんなでするラジオ体操は気持ちの良いものでした。

視聴覚センター所蔵のチャップリン関係のビデオを使って、「懐かしの名画鑑賞会」の開催を計画しています。この事業は、興味を持った高齢会員に将来は担ってもらおうと思っており、まずはボランティア集めのため高齢者を対象に開催します。

興味も生活様式も、多くのことが多様化しているといわれる現在、多様な行事を開催することにより、家に閉じこもる高齢者や寝るだけに帰ってくる働き盛りの人々に自治会活動や地域の活性化に関心を持ってもらい、且お互いを知ることが地域の安心・安全や支え合いにつながるものと考えて今後も地域活動を続けたいと思っています。

また、「生涯学習によるまちづくり」を念頭に各事業を企画しているが、企画した事業が思い通りに進み、いくつかの事業が道民力レッジ連携講座となっていることを願っています。

最後になりましたが、これら各種事業の企画・開催に当たっては、「めだかの学校」でのノウハウがあつてのことであり、仲間の皆様には深く感謝します。

## 私の地域活動

伊東 恒子

わたしは2013年8月19日に友だちの薦めで道民力レッジに入りました。道民力レッジの講座数は大変多く講座を選択するが結構大変です。4年経過しましたので受講講座の数も結構多くなりました。

わたしは生涯学習センター“ちえりあ”の近くに住んでいます。2014年3月頃ちえりあボランティアの新メンバーの募集の記事を見て応募しました。ちえりあボランティアがどんな仕事をするのか説明を聞いた時わたしには少し難しいと思いました。とにかく1年間頑張ってみようと思い今も活動は継続しています。

市民が考えつくる「さっぽろ市民力レッジ」の一部に市民参画という立場でちえりあボランティアの新メンバーが各種講座の企画・運営を担当しています。講座実施までの流れは以下の通りです。

①講座企画づくり②企画案決定③講師折衝④企画決定⑤企画書提出⑥広報活動⑦講師再確認⑧講座実施・運営⑨講座終了⑩実施報告書までをちえりあボランティアのメンバーが行います。一人の力は微々たるものでもみんなで力を合わせると思いがけない力量を発揮できるから不思議です。

道民力レッジで勉強してきたことが“ちえりあ”のボランティアの活動において如何に有効だったかをお話しします。わたしたちの仕事でいちばんの難関は講師選びです。講座の内容まではすんなり行つてもその講座を引き受けてくれる講師を見つけるのが難しいのです。そんな折わたしはメンバーに講師を知らないかとよく聞かれます。わたしは今まで道民力レッジでたくさんの講義を受けてきました。今まで受けた細かな内容はあまり覚えていませんがそれに近い講義を受けた経験があるときは家に帰ってレジメを調べてみるとありました。メンバーがすぐにその講師に連絡を取り講座を引き受けもらうこともあります。講師との折衝もなかなか思うようになりません。講師が話したい内容とわたしたち市民が聞きたい内容にギャップがあることが多いのです。講師は自分の研究成果を切実に話したいのにわたしたちの興味が別にあつたりするからです。

今後の課題としてはより受講生がたくさん集まる講座を企画することですがそれにはたくさんの情報を得てニーズを把握することが必要になります。そして受講してくれた人々がその講座を聞いてとても良かったという感想をもってくださればボランティア冥利につきます。これからも頑張って続けて行きたいです。